

「図書館と県民のつどい埼玉 2012」への出展

中 村 周
(図書館・情報係長)

牛 込 彰 彦
(こども学科 教授・図書館長)

伊 藤 道 雄
(こども学科 教授)

【キーワード：大学図書館 地域活動 図書館協議会】

1. 「図書館と県民のつどい埼玉」の概要

埼玉県図書館協会および埼玉県教育委員会が主催する「図書館と県民のつどい埼玉」は、埼玉県内の大学図書館、学校図書館、公共図書館とともに講演会や展示、子ども読書活動交流集会を行っており、第1回は2007年に開催している。

このイベントには、埼玉純真短期大学が加盟している埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA = Saitama Academic Library Association）が協力し、本学がその幹事館となった2012年に出展し参加した「図書館と県民のつどい埼玉」の活動について報告する。

2. 出展内容とその方法

(1) 「図書館と県民のつどい埼玉 2012」の構成

開催日時：2012年12月2日（日）10：00～16：00

開催場所：さいたま文学館・桶川市民ホール

主催者等：（主催）埼玉県図書館協会 埼玉県教育委員会
（共催）財団法人けやき文化財団 さいたま文学館
（後援）桶川市 桶川市教育委員会
財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部
（協力）埼玉県大学・短期大学図書館協議会
＜埼玉まなびいプロジェクト協賛事業＞

主な内容：（講演）作家 上橋菜穂子氏 記念講演

（展示）「大学図書館のお宝、お見せします」

「みなさんの学びを支援する：SALAが紹介する埼玉の公開講座」

「Book & Bag & Cafe」

「あなたの好奇心を刺激する！？図書館イベントご紹介」

「ブックケア 未来へつながる保存の技術」

（分科会）子ども読書活動交流集会

(2) 「大学図書館のお宝、お見せします」の出展

本学のタイトル：発達障害支援について考える

出展内容と方法：「教職実践演習（幼・小）」における伊藤道雄教授担当学生4名および安村由希子講師担当学生13名で構成する“わくわくクラブ”が、発達障害支援をテーマに図書館で調べ学習を行い、その成果をまとめてパネル展示した。また、関連する書籍や実験用具等を紹介した。

(3) 「みなさんの学びを支援する：SALAが紹介する埼玉の公開講座」の出展

2012年6月9日・30日、7月14日・28日の四日間に亘って開催された本学の公開講座について、リーフレットを展示し紹介した。

（４）発達障害に関わる事業の紹介と研究セミナーの案内

本学は平成 19 年度から平成 21 年度に亘る 3 ケ年、文部科学省の委託事業に取り組み研究を重ね、その分野における専門的知識を持つ教員を擁するに至った。現在は、地域の要請で子どもの発達相談を受けるなど、様々な活動を展開している。今回の出展にあたり、その紹介とともに、平成 25 年 2 月開催の特別支援教育に関する研究セミナーの案内を行った。



3. 意義と成果

「図書館と県民のつどい埼玉 2012」の参加者数について、延入場者数は約 2,000 名近い数となり、大学図書館ブースでの展示だけでも 600 名を超える見学者がいた。図書館に関するイベントということもあり、図書館に興味を持つ来場者が多いようであったが、本学の展示には、教育関係者からの見学や問い合わせもあり、発達障害分野への関心の高さも窺えた。

“大学図書館のお宝”を紹介するといっても、いわゆる貴重書を展示、公開することだけとは限らず、本学のように“学び”のスタイルをお宝と捉えることもあり、次のような今回の他大学の展示タイトルを見ても、大学の個性が強く出た多彩な構成になり、これらが複合的に魅力を増していたことも考えられる。今回の短期大学の参加は本学のみであったが、大学との比較や図書館の役割の違いを見せられたことは意義があり、出展による成果を出せたものと思う。

・「大学図書館のお宝、お見せします」の他の大学等の出展タイトル

跡見学園女子大学：3.11 と新たな「戦後」

国立女性教育会館：NVEC のあんな本、こんな本

芝浦工業大学：Enjoy Robot !

城西大学：日本の伝統医学～暮らしに生かす漢方の知恵～

女子栄養大学：画家の手遊び～食べ物風景～

聖学院大学：本から始まったアメリカ奴隷解放運動

東洋大学：古典から妖怪まで～創立 125 周年記念展示より～

文教大学：冬来たりなば春遠からじーシェリーコレクションー

ものづくり大学：国宝・重要文化財の調査報告書と学生の文化財調査

立正大学：居留地時代の築地と横浜

4. まとめ

大学図書館の地域開放や地域活動のあり方について、多様な方法があるかと思うが、一般的には、図書館施設を学外者が利用できるというサービスが挙げられる。ただ、大学図書館の蔵書構成は学術書や専門書が中心となり、一般利用者がスムーズに活用できるとは限らず、立地面においても、公共図書館と同様の利便性があるとは限らない。そこで、図書館が学外へ出て、他大学とともに図書館関連のイベントへ出展し、理解と普及に努めることも重要な役割ではないだろうか。そのような場で、大学の授業や教育活動と図書館とのつながりを見ていただくことも、大学そのものを知ってもらえる良い機会になると思う。